

Mercury-ONE オプション追加編 目次

オプションプログラムの追加時には、プロテクトの更新または書き換えの後、最新プログラムにアップデートします。

プロテクトの更新または書き換え をおこないます ... 1

- 1 ネット認証ライセンス（占有）の更新 2
- 2 ネット認証ライセンス（共有）の更新 3
- 3 ネット認証ライセンス（LAN）の更新 4
- 4 USBプロテクト【SNS-W】の書き換え 6
- 5 USBプロテクト【SNS-LAN-X】の書き換え 7
- 6 プロテクト Q&A 8

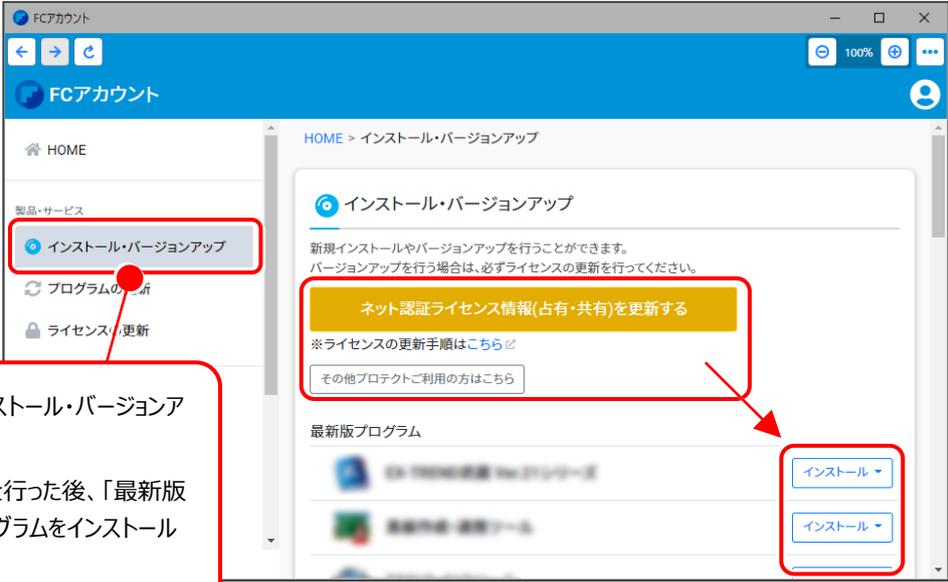
Mercury-ONE を アップデートします 13

- 1 インストール方法を確認します 14
- 2 「スタンドアロン」の アップデート手順 15
- 3 「サーバークライアント（共同編集あり）」の
アップデート手順 17
- 4 「サーバークライアント（共同編集なし）」の
アップデート手順 22
- 5 フリーフォーマットを追加します 26

FCアカウントでプログラムを更新することもできます

本書では「インストールDVD」を利用したプログラムの更新手順を解説していますが、「FCアカウント」を利用して、最新プログラムに更新することもできます。

※「**プログラム保守**」をご契約のお客様専用のサービスです。



FCアカウントの「インストール・バージョンアップ」を開きます。
「ライセンスの更新」を行った後、「最新版プログラム」から、プログラムをインストールしてください。

セットアップの前に確認してください



Check

セットアップ時の権限について

プロテクトおよび各プログラムをセットアップする場合は、Administrators グループに所属しているユーザーや、「コンピュータの管理者」のユーザーでログオンする必要があります。



Check

セキュリティソフトによる警告について

お使いのセキュリティソフトによっては、セットアップ時に警告メッセージが表示される場合があります。警告が表示された場合には、セキュリティソフトなどの常駐プログラムを終了してから、セットアップをおこなってください。



Check

データのバックアップをおこなってください

セットアップやアンインストールをおこなう場合は、必要なデータは必ずバックアップしてください。
バックアップの手順については、各ヘルプ、またはマニュアルをご覧ください。

お客様が作られたデータはお客様にとって大切な財産です。万が一の不慮の事故による被害を最小限にとどめるために、お客様御自身の管理・責任において、データは必ず定期的に2か所以上の別の媒体（HDD、CD、DVDなど）に保存してください。

また、いかなる事由におきましても、データの破損により生じたお客様の損害は、弊社では補償いたしかねますのでご了承ください。

プロテクトの更新または書き換えをおこないます

オプションプログラムの追加購入時や、プログラムのバージョンアップ時には、まず「ネット認証ライセンスの更新」または「USBプロテクトの書き換え」をおこないます。

各ページを参照して、ご利用されているプロテクトの更新/書き換えをおこなってください。

1. ネット認証ライセンス（占有）の更新	2
2. ネット認証ライセンス（共有）の更新	3
3. ネット認証ライセンス（LAN）の更新	4
4. USBプロテクト【SNS-W】の書き換え	6
5. USBプロテクト【SNS-LAN-X】の書き換え	7
6. プロテクト Q&A	8

1 ネット認証ライセンス（占有）の更新

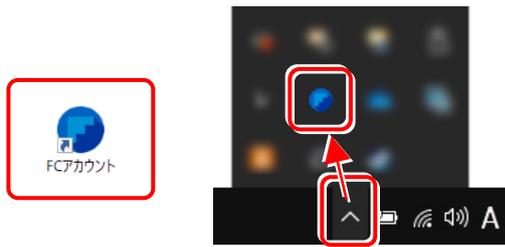
「ネット認証ライセンス（占有）」をお使いの方は、以下の手順でライセンス情報を更新してください。

※ ライセンス情報を更新しないと、追加購入したプログラムやバージョンアップしたプログラムを使用できません。

※ ライセンス情報の更新時には、インターネットに接続された環境が必要です。

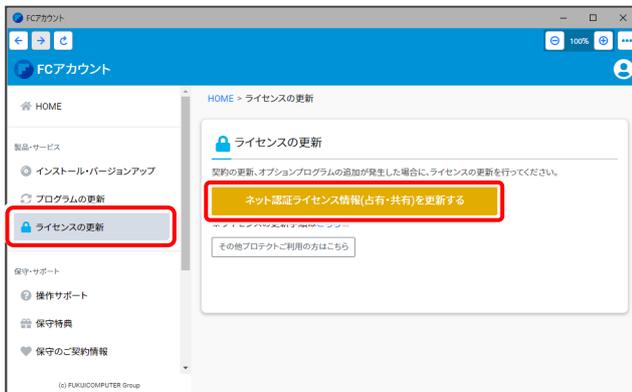
Step1 | ライセンス情報の更新

1. デスクトップのアイコン、または画面右下のタスクバーの通知領域のアイコンから、「FCアカウント」を起動します。



FCアカウントが表示されます。

「ライセンスの更新」の「ネット認証ライセンス情報（占有・共有）を更新する」をクリックします。



FCアカウントを使用していない場合は

画面右下のタスクバーの通知領域のアイコンから、「FCネット認証ライセンスセンター」を起動してください。

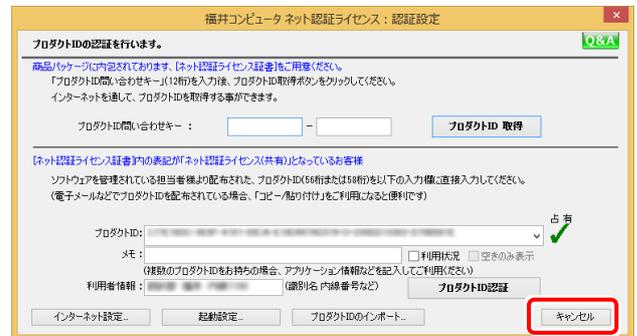


2. 「ネット認証ライセンス」の画面が表示されます。

「ネット認証ライセンス：認証設定」画面（下画面）が表示された場合は

プログラムの起動時にライセンス情報が自動更新されますので、更新の必要はありません。

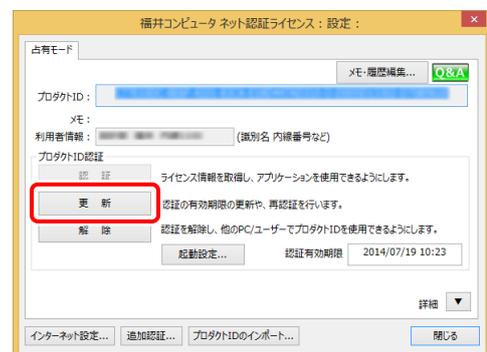
「キャンセル」ボタンを押して画面を閉じてください。



「ネット認証ライセンス：設定」画面（下画面）が表示された場合は

手動でライセンス情報の更新が必要です。

「更新」ボタンを押して、ライセンス情報を更新してください。



以上でライセンス情報の更新は完了です。

続けてプログラムのアップデート、またはバージョンアップをおこなってください。

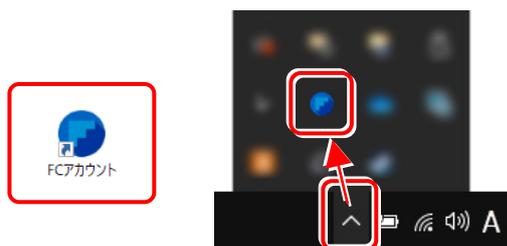
2 ネット認証ライセンス（共有）の更新

「ネット認証ライセンス（共有）」をお使いの方は、以下の手順でライセンス情報を更新してください。

- ※ ライセンス情報を更新しないと、追加購入したプログラムやバージョンアップしたプログラムを使用できません。
- ※ ライセンス情報の更新時には、インターネットに接続された環境が必要です。

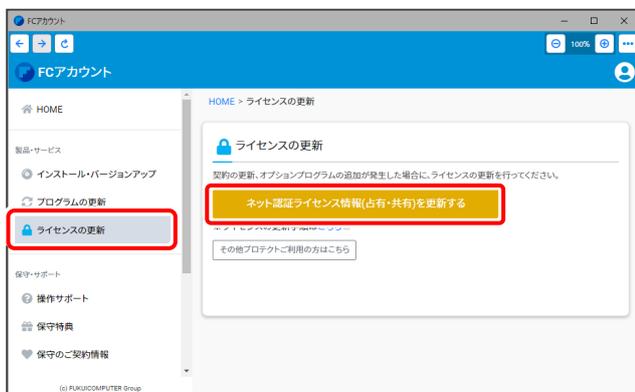
Step1 | ライセンス情報の更新

1. デスクトップのアイコン、または画面右下のタスクバーの通知領域のアイコンから、「FCアカウント」を起動します。



FCアカウントが表示されます。

「ライセンスの更新」の「ネット認証ライセンス情報（占有・共有）を更新する」をクリックします。



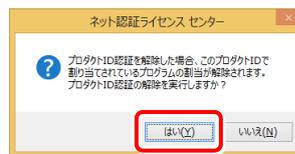
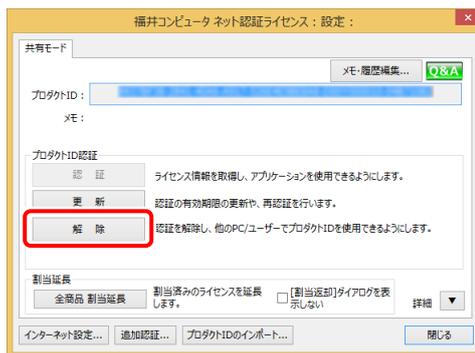
FCアカウントを使用していない場合は

画面右下のタスクバーの通知領域のアイコンから、「FCネット認証ライセンスセンター」を起動してください。

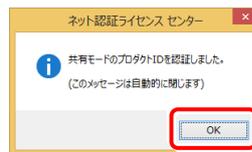


2. 「ネット認証ライセンス：設定」画面が表示されます。

「解除」ボタンを押して、プロダクトIDを解除します。



3. そのまま続けて、「認証」ボタンを押します。



以上でライセンス情報の更新は完了です。

続けてプログラムのアップデート、またはバージョンアップをおこなってください。

P.13へ

3 ネット認証ライセンス (LAN) の更新

「ネット認証ライセンス (LAN)」をお使いの方は、以下の手順でライセンス情報を更新してください。

- ※ ライセンス情報を更新しないと、追加購入したプログラムやバージョンアップしたプログラムを使用できません。
- ※ ライセンス情報の更新時には、インターネットに接続された環境が必要です。

Step1 | ネット認証LANサーバーの更新

1. ネット認証ライセンス (LAN) のサーバーに、「インストールDVD」をセットします。



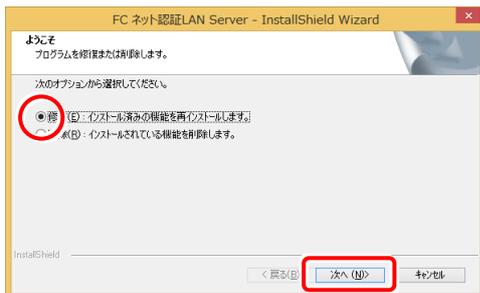
2. セットアップ画面の [ネット認証ライセンス LANモードサーバー] を押します。



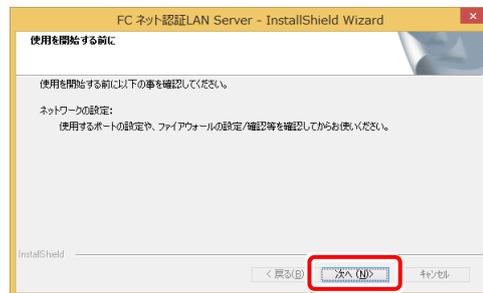
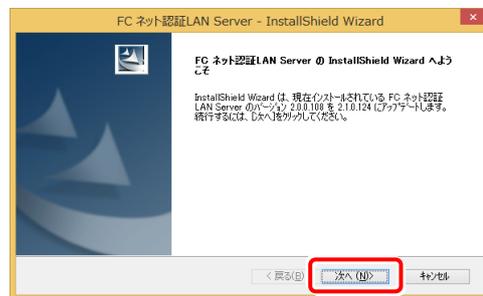
※ 上記画面が表示されない場合は、「インストールDVD」内の [Install.exe] を実行してください。

3. 表示される画面に従って、ネット認証LANサーバーを更新します。

[修復] と [削除] の選択画面が表示された場合は、[修復] を選択してください。



※ 表示される画面は、異なる場合があります。



4. [FC ネット認証LAN サービスコントローラ をすぐに起動する] にチェックボックスが表示された場合は、「オン」にして、[完了] を押します。



(次ページへ進みます)

Step2 | ライセンス情報の更新 (サーバー)

1. [FC ネット認証ライセンスLANモード サービスコントロール] 画面から [ライセンス認証] を押します。



※ 上記画面が表示されていない場合は、

Windows11 : スタートメニューの「すべてのアプリ」

Windows10 : スタートメニュー

から、[FC ネット認証LAN Server] – [FC ネット認証LAN サービスコントロール] を起動してください。

2. [更新] を押します。

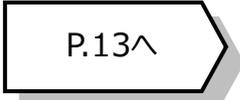


3. ライセンス情報が更新されたことを確認し、[閉じる] を押します。



以上でライセンス情報の更新は完了です。

続けてプログラムのアップデート、またはバージョンアップをおこなってください。



4 USBプロテクト【SNS-W】の書き換え

「USBプロテクト【SNS-W】」をお使いの方は、以下の手順でライセンス情報を書き換えてください。

※ ライセンス情報を書き換えないと、追加購入したプログラムやバージョンアップしたプログラムを使用できません。

Step1 | プロテクトの書き換え

1. コンピューターに、書き換えを行う USBプロテクトを、1つだけ装着します。

※1つだけ



2. 「プロテクト書換CD」を、コンピューターにセットします。



(プロテクト書換CD)

3. プロテクトを選択する画面が表示された場合は、「SNS-Wタイプ」をクリックします。



※ 表示される画面は異なる場合があります。

※ 上記画面が表示されない場合は、「プロテクト書換CD」内の [Install.exe] を実行してください。

4. 【SNS-W】にチェックが入っている事を確認して、「実行」ボタンを押します。



※ 複数のUSBプロテクトをお持ちの場合は、プロテクトを付け替えてから、同手順を繰り返します。
必ず1つずつ書き換えてください。

5. 正常終了したら【終了】ボタンを押して画面を閉じます。



以上でUSBプロテクトの書き換えは完了です。

続けてプログラムのアップデート、またはバージョンアップをおこなってください。

P.13へ

5 USBプロテクト【SNS-LAN-X】の書き換え

「USBプロテクト【SNS-LAN-X】」をお使いの方は、以下の手順でライセンス情報を書き換えてください。

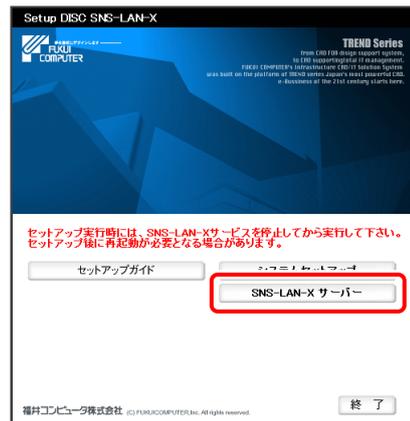
※ ライセンス情報を書き換えないと、追加購入したプログラムやバージョンアップしたプログラムを使用できません。

Step1 | 「SNS-LAN-Xサーバー」 (ライセンス管理プログラム) の更新

1. USBプロテクト【SNS-LAN-X】を装着したライセンス管理用サーバーに、送付された新しい「SNS-LAN-X用ライセンスCD【更新用】」をセットします。



2. [SNS-LAN-Xサーバー] ボタンを押します。



メッセージにしたがって、プログラムとライセンスを更新します。

以上でUSBプロテクトの書き換えは完了です。

続けてプログラムのアップデート、またはバージョンアップをおこなってください。

P.13へ

送付された「SNS-LAN-X用ライセンスCD【更新用】」は、大切に保管してください

サーバー入れ替えなどで、SNS-LAN-Xサーバー（ライセンス管理プログラム）の新規インストールが必要になった場合は、最新の「SNS-LAN-X用ライセンスCD【更新用】」を使用して新規インストールします。

最新の「SNS-LAN-X用ライセンスCD【更新用】」は、大切に保管してください。

6 プロテクト Q&A

Q.1

ネット認証ライセンスの操作が知りたいのですが、どこかに資料はありますか？

A.1

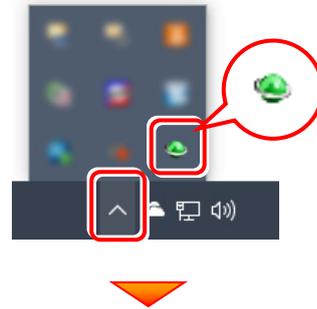
ネット認証ライセンスの Q&A をご覧になってください。

ネット認証ライセンスの設定画面から、ネット認証ライセンスの Q&A を開くことができます。

Q&A には、ネット認証ライセンスの機能や、お問い合わせのあった内容について記載されています。

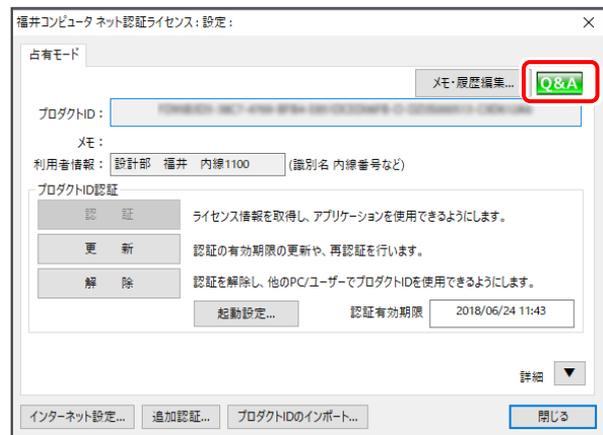
開き方

- 画面右下のタスクバーの通知領域に表示される「ネット認証ライセンスセンター」のアイコンをクリックして、ネット認証ライセンスの設定画面を開きます。

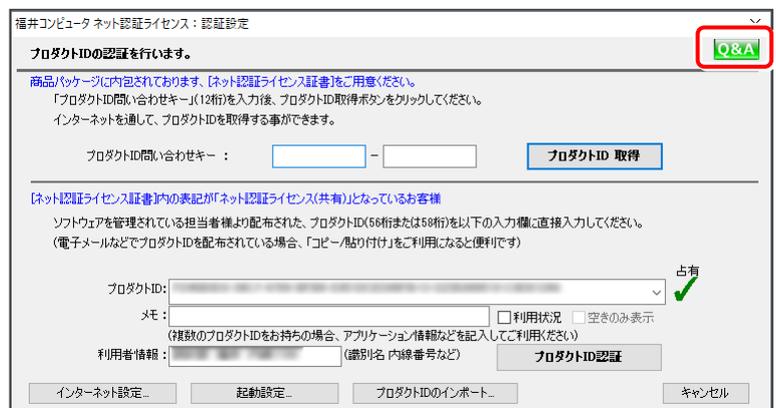


- ネット認証ライセンスの設定画面が表示されます。
[Q&A] ボタンを押します。

ネット認証ライセンスの Q&A が開きます。



または

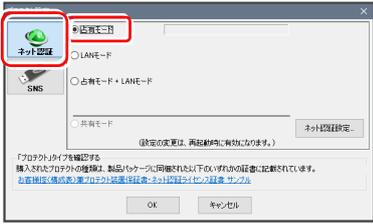
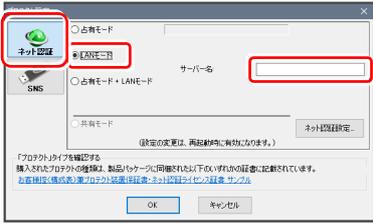
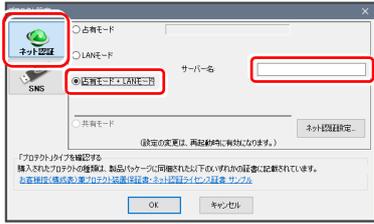
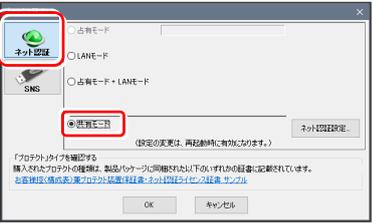
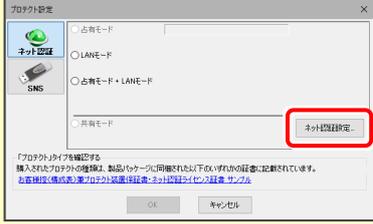
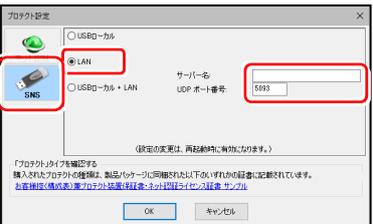
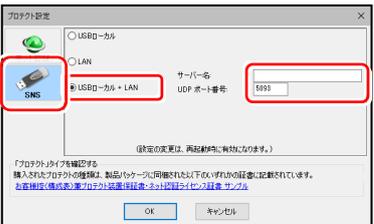


Q.2

プログラムの起動時に、「プロテクト設定」の画面が表示されて起動できません。どうすればいいのでしょうか？

A.2

お使いのプロテクトを選択し、[OK] ボタンを押してください。

<p>【ネット認証ライセンス（占有）】を使用</p> <p>[ネット認証] - [占有モード] を選択</p> 	<p>【ネット認証ライセンス（LAN）】を使用</p> <p>[ネット認証] - [LANモード] を選択</p> 	<p>【ネット認証ライセンス（占有）】と【ネット認証ライセンス（LAN）】を併用</p> <p>[ネット認証] - [占有モード+LANモード] を選択</p> 
<p>【ネット認証ライセンス（共有）】を使用</p> <p>[ネット認証] - [共有モード] を選択</p> 	<p>【ネット認証ライセンス（LAN）】を使用する場合は、[サーバー名] に、「FCネット認証LAN Server」をインストールしたライセンス管理用サーバーのコンピューター名を入力してください。</p> <p>モードが選択できない場合は、[ネット認証設定] ボタンを押して、ネット認証ライセンスの製品IDを認証してください。</p> 	
<p>【SNS-W】を使用</p>  <p>[SNS] - [USBローカル] を選択</p> 	<p>【SNS-LAN-X】を使用</p>  <p>[SNS] - [LAN] を選択</p> 	<p>【SNS-W】と【SNS-LAN-X】を併用</p>  <p>[SNS] - [USBローカル+LAN] を選択</p> 

【SNS-LAN-X】を使用する場合は、[サーバー名] に【SNS-LAN-X】を装着したライセンス管理用サーバーのコンピューター名を入力してください。また [ポート番号] には、サーバーの「SNS-LAN-X サービスコントロール」の [オプション] で設定されたポート番号を入力してください。（11ページを参照）

Q.3

ネット認証ライセンス（LAN）のライセンス管理について教えてください。

A.3

ライセンス管理用のサーバーにインストールされる、「FC ネット認証ライセンス LANモード サービスコントロール」で管理します。

「FC ネット認証ライセンス LANモード サービスコントロール」は、「ネット認証ライセンス（LAN）」のライセンス情報の確認や、サービスの開始や停止をおこなうことができます。

— 起動方法 —

- Windows11 の場合：Windowsのスタートメニューの「すべてのアプリ」
- Windows10 の場合：Windowsのスタートメニュー

から、「FC ネット認証LAN Server」 - 「FC ネット認証LAN サービスコントローラ」を実行してください。

The screenshot shows the main application window with several callout boxes explaining its features:

- [サーバー名]** サーバーのコンピューター名が表示されます。
- [ユーザーID]** ネット認証LANのユーザーIDが表示されます。
- [ライセンス数]** 同時使用可能なライセンス数が表示されます。
- [空きライセンス数]** 現在使用可能な残りのライセンス数が表示されます。
- [サービス設定]** 接続設定やログファイルを設定します。
 - [接続] タブ** 接続プロトコルを設定します。
 - [動作ログ] タブ** 使用されたアプリケーションの動作状況を記録します。
 - [使用状況ログ] タブ** 使用されたアプリケーションの記録を定期的に残します。
- [ライセンス認証]** プロダクトIDの認証・更新などを行います。
- [自動更新設定]** 認証の自動更新処理について設定します。
- [開始]** サービスを開始します。ネット認証LANを使用する場合は、サービスを開始しておく必要があります。
- [停止]** サービスを停止します。
- [最新に更新]** 空きライセンスなどを最新の情報に更新します。
- [サーバー接続ユーザー一覧]** ライセンスを使用しているユーザーを確認します。
- [オプション利用ユーザー一覧]** 選択したオプションを使用しているユーザーを確認します。
- [イベントビューアー]** Windows標準機能の「イベントビューアー」を開きます。ネット認証LANサーバーが動作しないときなど、サポートの対応時に使用します。

- [動作ログ] には、アプリケーションの動作状況が記録されます。使用するには、
 1. [ログの出力] チェックボックスをオンにし、[パス] にログファイルの出力先フォルダーを設定します。
 2. 「FC ネット認証ライセンスLANモード サービスコントロール」のサービスの開始時に、ログの取得が開始されます。
 3. サービスの停止時に、ログファイルが保存されます。ファイル名は、ネット認証LAN動作ログ_ (日時).log です。
- [使用状況ログ] には、「何時何分の」ライセンスの空き状況が記録されます。使用するには、
 1. [ログの出力] チェックボックスをオンにし、[パス] にログファイルの出力先フォルダーを設定します（[間隔] と [最大履歴数] は適宜に設定）。
 2. 「FC ネット認証ライセンスLANモード サービスコントロール」が表示されている状態で、ログの取得が開始されます。
 3. 「FC ネット認証ライセンスLANモード サービスコントロール」を閉じると、ログファイルが保存されます。
 4. 再度「FC ネット認証ライセンスLANモード サービスコントロール」を起動すると、前のログファイルは別ファイル（ログファイル名+日付）で残され、新たなログの取得が開始されます。
- ネット認証の「占有」と「LAN」を併用した場合、「占有」のライセンスが優先して使用されます。

Q.4

USBプロテクト【SNS-LAN-X】のライセンス管理について教えてください。

A.4

ライセンス管理用のサーバーにインストールされる、「FC SNS-LAN-X サービスコントロール」で管理します。

「FC SNS-LAN-X サービスコントロール」は、「USBプロテクト【SNS-LAN-X】」のライセンス情報の確認や、サービスの開始や停止をおこなうことができます。

— 起動方法 —

- Windows11 の場合： Windowsのスタートメニューの「すべてのアプリ」
- Windows10 の場合： Windowsのスタートメニュー

から、「FC SNS-LAN-X Server」 - 「FC SNS-LAN-Xサービスコントローラ」 を実行してください。

The screenshot shows the main window of the 'FC SNS-LAN-X サービスコントロール' application. It features a top navigation bar with '開始(S)', '停止(T)', '更新(P)', '接続ユーザ(U)', and 'オプション(O)...' buttons. Below the navigation bar is a table with columns for 'ライセンス数' and '空きライセンス数'. A 'サーバ:' field and a 'ユーザID:' field are located at the top left. A '接続ユーザ(U)...' button is at the bottom right. A separate 'オプション' dialog box is shown at the bottom right, with a 'UDP' section containing a 'ポート番号:' field set to '5093'.

[サーバ]
SNS-LAN-Xプロテクトが接続されているコンピューター名が表示されます。

[ユーザID]
SNS-LAN-XプロテクトのユーザIDが表示されます。

[ライセンス数]
同時使用が可能なライセンス数が表示されます。

[空きライセンス数]
現在使用可能な残りのライセンス数が表示されます。

[開始] ボタン
サービスを開始します。SNS-LAN-Xプロテクトを使用する場合は、サービスが開始されている必要があります。

[停止] ボタン
サービスを停止します。

[更新] ボタン
表示されている情報を最新に更新します。

[接続ユーザ] ボタン
選択したアプリケーションを使用しているユーザーを確認します。

[オプション] ボタン
接続設定やログファイルを設定します。

[接続] タブ
接続で使用するポート番号を設定します。

[使用状況ログ]
使用されたアプリケーションの記録を定期的に残します。

- **【ポート番号】** の初期値は「5093」です。接続に問題がある場合のみ、変更してください。変更した場合は、プログラム側のプロテクト設定のポート番号も合わせる必要があります。
- **【使用状況ログ】** には、「何時何分の」「ライセンスの空き状況」が記録されます。使用するには、
 1. 「ログの出力」チェックボックスをオンにし、「パス」にログファイルの出力先を設定。（「間隔」と「最大履歴数」は適宜に設定）
 2. 「FC SNS-LAN-X サービスコントロール」が表示されている状態で、ログの取得が開始されます。
 3. 「FC SNS-LAN-X サービスコントロール」を閉じると、ログファイルが保存されます。
 4. 再度「FC SNS-LAN-X サービスコントロール」を起動すると、前のログファイルは別ファイル（ログファイル名+日付）で残され、新たなログの取得が開始されます。
- USBローカルとLANのプロテクトの2種類を併用した場合、USBローカルのライセンスが優先して使用されます。

Q.5

「FCアカウント」では何ができるのでしょうか？ 使い方を教えてください。

A.5

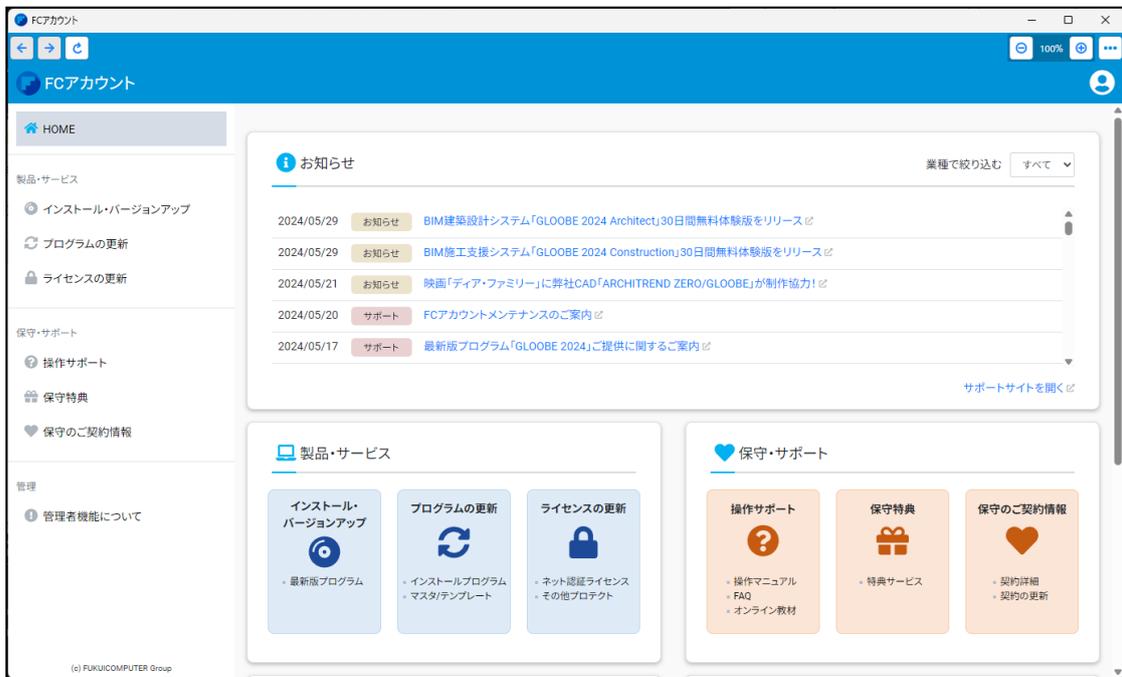
「FCアカウント」では、下記をはじめとした様々な機能がお使いいただけます。

・ 製品のアップデート

CAD製品のアップデートプログラムの提供やライセンスの更新、再セットアップ用ファイルのご提供などにご利用いただけます。

・ 保守サポートサービスのご利用

保守サポートサービス「FCメンバーシップ」のご契約情報確認・各種手続き・ご契約特典などの様々な機能をご利用いただけます。

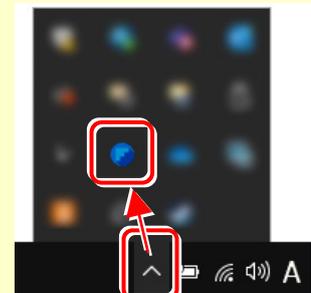


※ すべての機能を利用するには、インターネット接続環境が必要です。

※ 画面は予告なく変更される場合がございます。

「FCアカウント」を起動させるには

デスクトップのアイコン、または画面右下のタスクバーの通知領域のアイコンから、「FCアカウント」を起動します。



Mercury-ONE を アップデートします

オプションプログラムの追加時には、プロジェクトの更新または書き換え
の後、最新プログラムにアップデートします。

各ページを参照して、プログラムのアップデートをおこなってください。

1. インストール方法を確認します 14
2. 「スタンドアロン」の アップデート手順 15
3. 「サーバークライアント（共同編集あり）」の
 アップデート手順 17
4. 「サーバークライアント（共同編集なし）」の
 アップデート手順 22
5. フリーフォーマットを追加します 26

1 インストール方法を確認します

Mercury-ONE のインストール方法には、以下の3種類があります。
現在ご使用中のインストール方法に合わせて、プログラムをアップデートしてください。

スタンドアロン

すべてのファイルを、
1台のコンピューターに
インストールします。

1台のコンピューターで、
現場データを編集します。

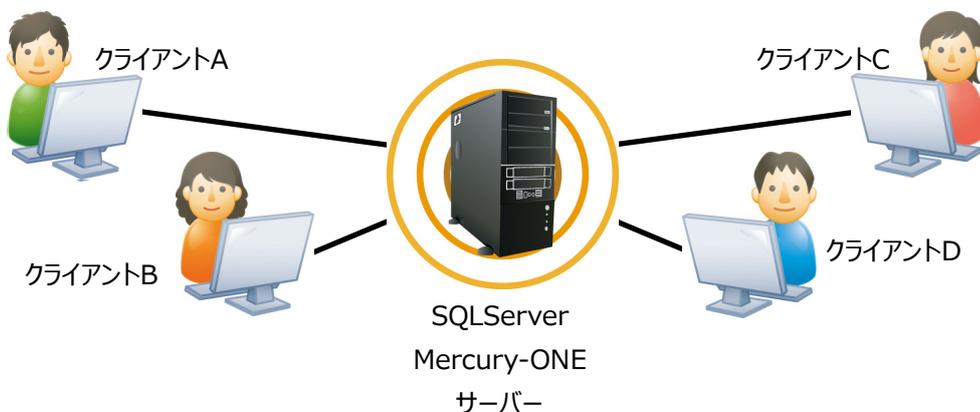


次ページへ

サーバークライアント（共同編集あり）

現場データや設定ファイルを
サーバーで管理します。

現場データを、複数のユーザーで
同時に共同編集できます。

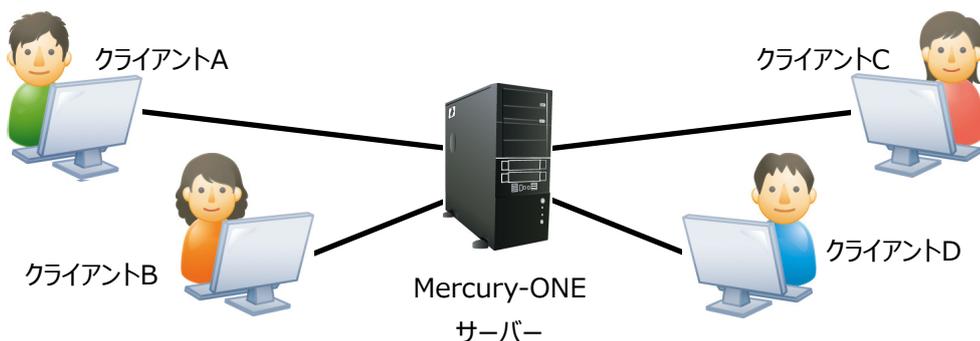


P.17へ

サーバークライアント（共同編集なし）

現場データや設定ファイルを
サーバーで管理します。

現場データの共同編集はできません。



P.22へ

2 「スタンドアロン」のアップデート手順

「スタンドアロン」で使用中の Mercury-ONE をアップデートします。

1. コンピューターに、「インストールDVD」をセットします。



2. セットアップ画面の [Mercury-ONE] ボタンを押します。



※ 上記画面が表示されない場合は、「インストールDVD」内の
[Install.exe] を実行してください。

[スタンドアロン] タブを選択します。



[① Mercury-ONE] ボタンを押します。



3. 表示される画面に従って、インストールを進めます。



(次ページへ続きます)

[修復インストール] を選択して、[次へ] を押します。



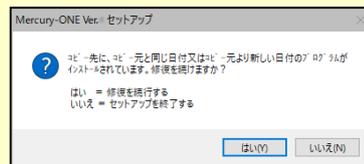
内容を確認して、[セットアップ開始] を押します。

プログラムのインストールが開始されます。



インストールの途中で「コピー先に、コピー元と同じ日付又は～」というメッセージが表示された場合は、通常は、[いいえ] をクリックして処理を中止します。

プログラムが正常に動かないなどで修復したい場合は、[はい] をクリックしてインストールを続けます。



インストールが終わったら、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について] を確認してください。

確認を終えたら、[閉じる] を押します。

再起動が必要な場合は、再起動してください。



ウイルスセキュリティソフトの誤認識について

ウイルスセキュリティソフトの誤認識により、Mercury-ONEが正常に動作しない場合があります。

誤認識を防ぐためには、セキュリティソフト側で「検出の除外」を設定する必要がある場合があります。

「検出の除外」の設定手順については、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について]ボタンから表示される資料を参考にしてください。

アップデート時には、最後に「フリーフォーマットの追加」をおこないます。

P.26へ

3 「サーバークライアント（共同編集あり）」のアップデート手順

「サーバークライアント（共同編集あり）」で使用中の Mercury-ONE をアップデートします。

まずサーバーで「Step1 | Mercury-ONE サーバーのアップデート」をおこないます。

次にクライアントで「Step2 | Mercury-ONE クライアントのアップデート」をおこないます。

まず、サーバーをアップデートします

Step1 | Mercury-ONE サーバーのアップデート

1. サーバーに、「インストールDVD」をセットします。



2. セットアップ画面の
[Mercury-ONE] ボタンを押します。



※ 上記画面が表示されない場合は、「インストールDVD」内の
[Install.exe] を実行してください。

[サーバークライアント（共同編集あり）] タブを
選択します。



[② Mercury-ONE サーバーインストール] ボタン
を押します。



(次ページへ続きます)

3. インストール環境の確認画面が表示されます。

すべての項目を確認してチェックしてから、
[次へ] ボタンを押します。



[ソフトウェア使用許諾契約の全条項に同意します] を
選択します。



表示される画面に従って、インストールを進めます。



[修復インストール] を選択します。



(次ページへ続きます)

内容を確認して、[セットアップ開始]を押します。

プログラムのインストールが開始されます。



インストールが終わったら、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について]を確認してください。

確認を終えたら、[閉じる]を押します。

再起動が必要な場合は、再起動してください。



サーバーのアップデートは完了です。

続けてクライアントコンピューターのアップデートをおこないます。

(次ページ「Step2」へ進みます)

ウイルスセキュリティソフトの誤認識について

ウイルスセキュリティソフトの誤認識により、Mercury-ONEが正常に動作しない場合があります。

誤認識を防ぐためには、セキュリティソフト側で「検出の除外」を設定する必要がある場合があります。

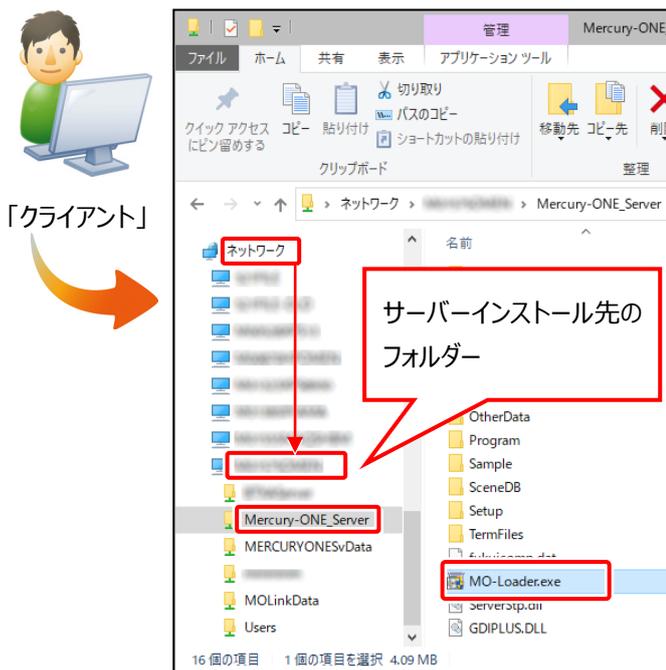
「検出の除外」の設定手順については、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について]ボタンから表示される資料を参考にしてください。

次に、クライアントをアップデートします

Step2 | Mercury-ONE クライアントのアップデート

1. クライアントで、「エクスプローラー」を開きます。

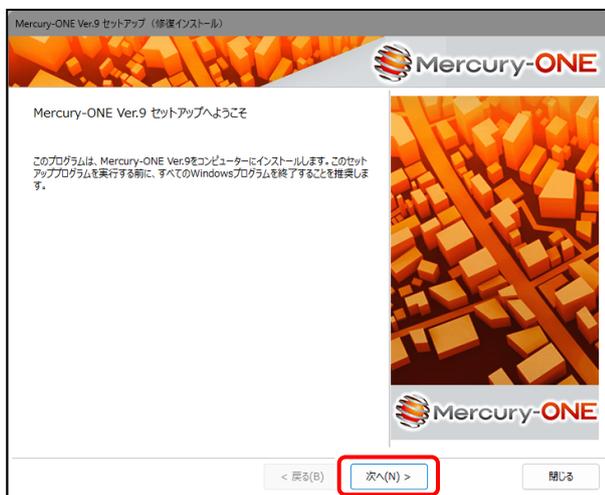
「ネットワーク」からサーバーを選択して、
「サーバーインストール先のフォルダー」にある
「MO-Loader.exe」を実行します。



クライアントとサーバーが、同一PCの場合は

上記手順と同様に、「エクスプローラー」の「ネットワーク」から自分のPCを開き、「サーバーインストール先のフォルダー」にある「MO-Loader.exe」を実行してください。

2. 表示される画面に従って、インストールを進めます。



[修復インストール] を選択します。



3. インストール環境の確認画面が表示されます。

すべての項目を確認してチェックしてから、
[次へ] ボタンを押します。



(次ページへ続きます)

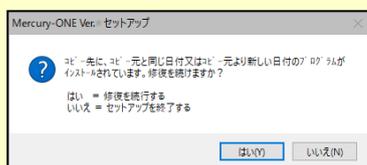
内容を確認して、[セットアップ開始]を押します。

プログラムのインストールが開始されます。



インストールの途中で「コピー先に、コピー元と同じ日付又は～」というメッセージが表示された場合は、通常は、[いいえ]をクリックして処理を中止します。

プログラムが正常に動かないなどで修復したい場合は、[はい]をクリックしてインストールを続けます。



インストールが終わったら、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について]を確認してください。

確認を終えたら、[閉じる]を押します。

再起動が必要な場合は、再起動してください。



ウイルスセキュリティソフトの誤認識について

ウイルスセキュリティソフトの誤認識により、Mercury-ONEが正常に動作しない場合があります。

誤認識を防ぐためには、セキュリティソフト側で「検出の除外」を設定する必要がある場合があります。

「検出の除外」の設定手順については、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について]ボタンから表示される資料を参考にしてください。

アップデート時には、最後に「フリーフォーマットの追加」をおこないます。

P.26へ

4 「サーバークライアント（共同編集なし）」のアップデート手順

「サーバークライアント（共同編集なし）」で使用中の Mercury-ONE にオプションプログラムを追加します。

まずサーバーで「Step1 | Mercury-ONE サーバーのアップデート」をおこないます。

次にクライアントで「Step2 | Mercury-ONE クライアントのアップデート」をおこないます。

まず、サーバーをアップデートします

Step1 | Mercury-ONE サーバーのアップデート

1. サーバーに、「インストールDVD」をセットします。



2. セットアップ画面の
「Mercury-ONE」ボタンを押します。



※ 上記画面が表示されない場合は、「インストールDVD」内の
「Install.exe」を実行してください。

「サーバークライアント（共同編集なし）」タブを
選択します。



「① Mercury-ONE サーバーインストール」ボタン
を押します。



(次ページへ続きます)

3. 表示される画面に従って、インストールを進めます。



「ソフトウェア使用許諾契約の全条項に同意します」を選択します。



「セットアップ開始」を押します。
プログラムのインストールが開始されます。



インストールが終わったら、「ウイルスセキュリティソフトの誤認識について」を確認してください。

確認を終えたら、「閉じる」を押します。



ウイルスセキュリティソフトの誤認識について

ウイルスセキュリティソフトの誤認識により、Mercury-ONEが正常に動作しない場合があります。

誤認識を防ぐためには、セキュリティソフト側で「検出の除外」を設定する必要がある場合があります。

「検出の除外」の設定手順については、「ウイルスセキュリティソフトの誤認識について」ボタンから表示される資料を参考にしてください。

サーバーのアップデートは完了です。

続けてクライアントコンピューターのアップデートをおこないます。

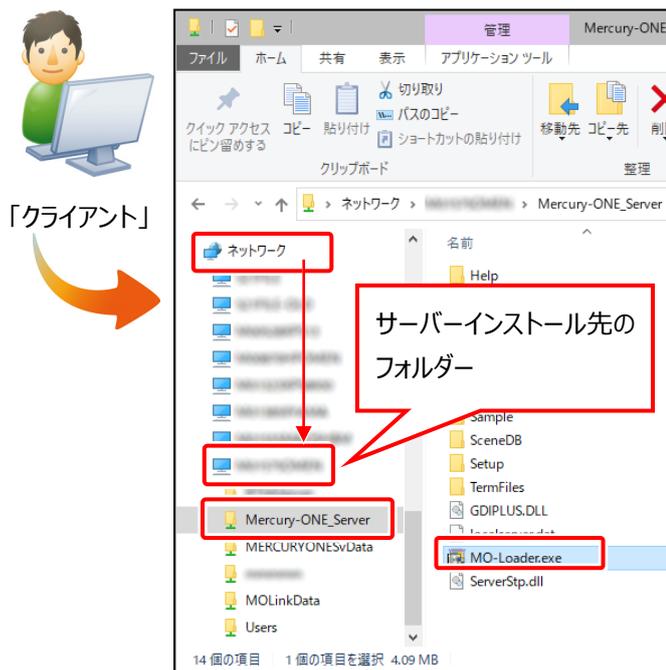
(次ページ「Step2」へ進みます)

次に、クライアントをアップデートします

Step2 | Mercury-ONE クライアントのアップデート

1. クライアントで、「エクスプローラー」を開きます。

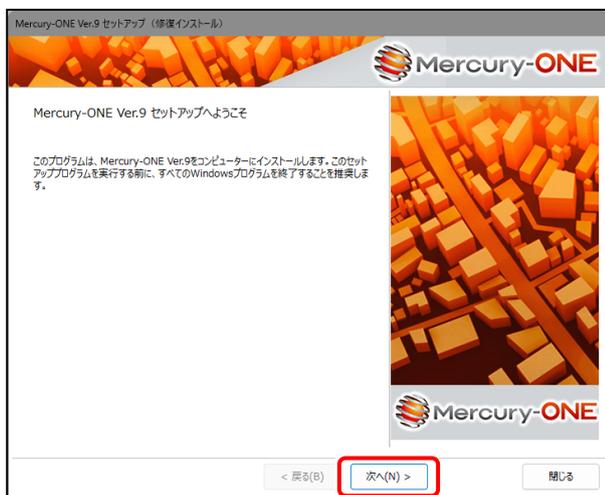
「ネットワーク」からサーバーを選択して、
「サーバーインストール先のフォルダー」にある
「MO-Loader.exe」を実行します。



クライアントとサーバーが、同一PCの場合は

上記手順と同様に、「エクスプローラー」の「ネットワーク」から
自分のPCを開き、「サーバーインストール先のフォルダー」にある
「MO-Loader.exe」を実行してください。

2. 表示される画面に従って、インストールを進めます。



[修復インストール] を選択します。



内容を確認して、[セットアップ開始] を押します。

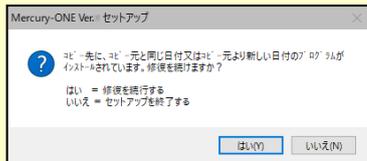
プログラムのインストールが開始されます。



(次ページへ続きます)

インストールの途中で「コピー先に、コピー元と同じ日付又は～」というメッセージが表示された場合は、通常は、[いいえ] をクリックして処理を中止します。

プログラムが正常に動かないなどで修復したい場合は、[はい] をクリックしてインストールを続けます。



インストールが終わったら、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について] を確認してください。

確認を終えたら、[閉じる] を押します。

再起動が必要な場合は、再起動してください。



ウイルスセキュリティソフトの誤認識について

ウイルスセキュリティソフトの誤認識により、Mercury-ONEが正常に動作しない場合があります。

誤認識を防ぐためには、セキュリティソフト側で「検出の除外」を設定する必要がある場合があります。

「検出の除外」の設定手順については、[ウイルスセキュリティソフトの誤認識について]ボタンから表示される資料を参考にしてください。

アップデート時には、最後に「フリーフォーマットの追加」をおこないます。

次ページへ

5 フリーフォーマットを追加します

プログラムのアップデート時には、計算書・求積表フォーマットが追加されている場合があります。

最後に、必ずフリーフォーマットの追加を実行してください。

※ サーバークライアント（共同編集あり）（共同編集なし）の場合は、いずれか1台のクライアントで「フリーフォーマットの追加」をおこなえばOKです。このときサーバーのフリーフォーマットが追加されます。

1. Windows11 の場合

- [スタート] ボタン-「すべてのアプリ」
- [FukuiComputerApplication]

Windows10 の場合

- [スタート] ボタン
- [FukuiComputerApplication]

から

[Mercury-ONE Ver.9 フリーフォーマットの追加]

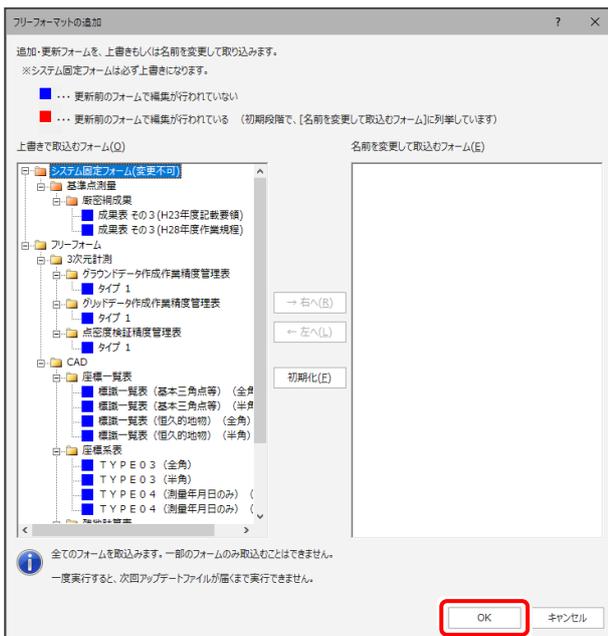
を実行して下さい。

追加の必要が無い場合は、「既にフリーフォーマットデータは追加されています」と表示されます。

2. 追加フォームがある場合は、[フリーフォームの追加]

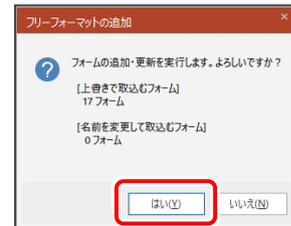
ダイアログが表示されます。

内容を確認して、[OK] をクリックします。

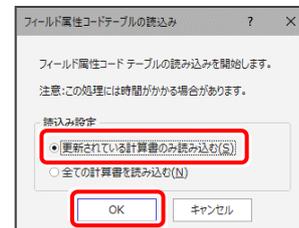


※ ダイアログの項目については、右上の [?] ボタンで表示されるヘルプを参照してください。

3. 表示されるメッセージにしたがって、処理を進めます。



[更新されている計算書のみ読み込む] を選択して [OK] をクリックします。



処理時間は、環境によって異なりますが、1時間ぐらいかかる場合もあります。

その間、コンピューターのシャットダウン等は決しておこなわないでください。



以上で Mercury-ONE のアップデートは **完了** です。